

## 「トラ」のその後

熊本保健科学大学事務局長 石原義光

わが家では、私の母親の看病などが原因となり、家内が長い間落ち込んでしまった状態が続いていました。明るい娘がいろいろと話しかけてくれることでかなり元氣を取り戻してはいましたが、以前に比べればまだまだという状況でした。

このようなときに、「トラ」の話が持ち上がりました。かわいそうな猫が大学に捨てられていた話や、一度はもらわれていったが戻された話などを何気なく話題としていました。しかし家内はあまり関心なさそうな雰囲気でした。

日がたつにつれ、トラの引き取り手がないということが明らかとなり、「どうしても引き取り手がないときには、局長が面倒見る」との約束が自然発生的に出来上がりました。さてさてどうしたものか？

夕食の時間に私がトラの話を頻繁にしたので、家内と娘が察知したようでした。トラをわが家で飼うことに対して、娘は積極的でしたが、家内は「えー！ 飼うの？」といまいちでした。その理由は以前、飼っていた犬を見送ったことも関係しているようでした。

しかし、少しずつ家内もその気になってきて、ついには「ネコの飼育方法」なる本まで購入し、勉強していました。ペットショップへ行き、いろんなグッズを購入しました。えらい変わりよう

です。

そしてついに、二〇〇八年九月十一日にトラがわが家に来ました。

「かわいい！」の連発です。トラにしてみると見知らぬ家に連れてこられ、これから何が始まるのやらという、不安な気持ちでいっぱいだったことと思います。不安そうな顔をし、警戒してました。

しかし、数日がたつと、わが家にもすつかり慣れてしまい、トラはオモチャで遊んだり、二階へ駆け上がったたり、家の中を走り回るようになりました。やんちゃ猫の本領が出てきました。しかし、オムツは不可欠です。いつウンコをするか分かりません。最初はオムツを穿かせるのに難儀しましたが、「トラ」の胴体を両脚で挟むことではやくオムツを穿かせることができるようになりました。何でも知恵が出てくるものです。

トラは狭いところが大好きで、小さな入れ物に入ったり、袋の中に入ったり。いろんな遊びを発見していました。

九月の暖かい日はお風呂で体を洗ってやりました。「ギャー!!!」と大声を出し、抵抗し、逃げ回りました。それでも捕まえて、私はゴシゴシときれいに洗いました。それを見た家内と娘は、私を厳しい目線で「虐待である」と追及しました。トラはお風呂が嫌いであると私は思っていました。しかし、その後、家内がお風呂にお湯を入れると興味があるようで、いつも写真のようにのぞき込んでいました。いつかはダイビングをするのではないかと私は思っていました。不思議な猫です。



お風呂をのぞき込むトラ。オムツがお似合い

秋も深まり、肌寒くなってくると、いつも家内のそばに来るようになったそうです。家事がひと段落し、家内がお茶を飲み始めると家内にくっついて昼寝を始めていたようです。やはりまだ子供であり、親のぬくもりが恋しかったのかもしれません。そのしぐさがとてもかわいかったと家内が言っていました。

季節が冬になり、寒さも厳しくなってきました。わが家もコタツのシーズンになりました。すると、トラはここぞとばかりに「コタツ猫」を始めました。わが世の春とばかりに、コタツで昼寝です。「猫はコタツで丸くなる」という歌詞は嘘ではないかと思うように伸びきっていました。するとオムツが外れます。さあ大変。ウンコが落ちてはいないか？ 私たちはあちこちを探し回っていました。

本当に元気で、やんちゃで、愛嬌があったトラが、十二月も下旬になって、急に便が出なく



花とぬいぐるみに囲まれた愛犬（左）とトラの遺骨（石原家）

なっってしまった。病院で診てもらい、便を出してもらったのですが、完全ではなかったようです。その後、急激に容態が悪くなり、十二月二十三日に死んでしまいました。まさか、このようなことになるとは思っていませんでした。家内と娘はとても悲しみ、数日ずっと泣いていました。今でもトラの話をするとき涙が出そうです。

「トラ」が死んでしまったことは大変つらく、悲しいことですが、トラはわが家に明るい笑顔と新たな元気をもたらしてくれたように思います。長く落ち込んでいた家内が「トラ」によって新たな力をもらい、明るく元気になりました。家族全員が感謝しています。

心の底から言いたいと思います。トラ君、ありがとう。